

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.35

2010.12.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

これから定年を迎える方、子育てが一段落した方、地域で何か活動をしたいと思っ
ている方々に、地域社会に第1歩を踏み出す手がかりを提供します。

市内のいろいろな団体に加入し、活動している方も多数参加します。お誘い
合わせの上、お気軽にご参加ください。



▲昨年の講座から

【主催】 NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ／稲城市社会福祉協議会／
稲城市立公民館

【共催】 稲城市協働推進課

【問い合わせ・連絡先】 市民活動サポートセンターいなぎ（市役所協働推進課内）

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

ハッピー/タイムメント講座⑩

地域があなたを待っている

～はじめの一歩を踏み出してみませんか～

■日時／2011年1月22日（土）
13:30分～16:00（開場 13:00）

■会場／稲城市地域振興プラザ4階

■参加費／無料

【プログラム】

●第1部 講演 「高齢者の社会貢献

活動の意義と可能性」

講師 柴田 博氏

北海道大学医学部卒業・医学博士・桜美林大学大学院
老年学教授・人間総合科学学大学院教授
著書『8割以上の老人は自立している』『元気に長
生き元気に死ぬ』『肉食の進め』『生涯現役「スー
パー老人の秘密』他

●第2部 活動体験談

藤田和夫さん（パソコン楽々クラブ）

中山義行さん（NPO法人 支え合う会のみり）

今井美千枝さん（百村・東長沼・大丸ふれあいセンター）

●第3部 活動場所の紹介と交流会

社会福祉協議会、文化センター、市民活動
サポートセンターなどのブースでいろいろ
な活動団体の紹介をいたします。

いなぎ市民活動フォーラム2010の報告

11月20日(土)に「いなぎ市民活動フォーラム2010」が「施設の有効活用をもっと!もっと!」というテーマで行われました。

第1部のパネルディスカッションでは、4人の方が活動状況や施設の有効活用についての事例や提案を出し合いました。調布市社会福祉協議会が取り組んでいる成功事例は大いに参考になりました。

第2部では6グループに分かれて、具体的に施設の活用方法などについて話し合いをしました。

参加者は47名で、そのうち行政

職員13名の参加があり、協働のまちづくりを進める貴重な話し合いの場を持つことが出来ました。各グループとも様々な分野の方との意見交換が出来たようで、「もっと討議の時間が欲しかった」「市民の生の声を聞くことが出来て参考になった」「情報や課題などを共有できた」などの前向きな意見が多く寄せられました。

次は実現に向けて、市民と行政の協力体制が必要です。ひとつでも形になっていくと次のやる気につながっていくのではと思います。

(廣田)



▲第1部のパネルディスカッション ▶

パネラーは左から藤森さん(みのり)、林さん(FFネット)、斉藤さん(七つの子)、市村さん(調布市社協)



▲第2部のグループ討議 ▶



▲角田理事長の閉会のあいさつ

十一月

「稲城市のサッカーについて」

話し手：宮崎 光弘さん

サッカーの起源に始まり、1968年に稲城サッカー連盟（当時は稲城町蹴球連盟）が発足したこと、その後サッカーを愛する人たちが、子どもたちを熱心に指導する方々の活動があって現在まで継続していることについて、豊富な資料に沿ってとても分かりやすくお話していただきました。

2002年8月には、国際知的障害者スポーツ連盟サッカー世界選手権大会で稲城市中央公園総合グラウンドが会場の一つになりました。その時に地元サッカー連盟のメンバーが公式記録を担当したという興味ある話も聞くことができました。

地元のサッカーに関わる人たちが、選手や審判員など、人材の育成、会場の整備などを行っていることを改めて知り、頭が下がる思いがしました。

またこの日は、公式ボールやイエローカード、レッドカード、笛などを持参していただいたので、実際に触れてみましたが、ボールは思ったよりも軽く、審判が使用する旗は振りおろす時に「バシッ」といい音がしました。公式記録のとり方やオフサイドなど専門的な話は難しかったですが、疑問に思っていたFIFAの意味がよく分かりました。
(稲垣)

十二月

「かるた取りの愉しみ」

話し手：川野 克己さん

川野さんは高校の時にかるたの世界にはまり、現在に至ったそう、スマートなお体からテノール歌手のような、ピツクワするほど美しい声で話し出されました。

私たちが普段使用している「百人一首」は、のちの人が多少補ったとされていますが藤原定家がまとめたものです。

かるた遊びとしては、大奥の御殿女中からはじまり、元禄の頃には一般の庶民に広まりました。私たちも子どもの頃の正月の遊びと言えば「いろはかるた」「百人一首」「風揚げ」「はねつき」を思い出します。特に「百人一首」は、家族全員の遊びとして楽しいものでした。

今回は、家族で楽しむ「かるた取り」ではなく、スポーツとして昇華させた「競技かるた」のルールを紹介されました。

かるたと言えば文系に思われがちですが、お話を伺っているうちに、「競技かるた」はどちらかと言えば体育系ではないかと思いました。

参加者は競技としての「かるた」は知らないことが多く、とても興味深い話に、時間を忘れて聞き入っていました。

(佐藤)

アップルビーツの

今宵はビートルズナイト

開場 17:30 開演 18:00

2011.1.22 (土)



- 入場料 1,000円
- 会場 城山文化センター視聴覚室
- 主催 NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ
- 共催 稲城市企画部協働推進課

● チケットは市民活動サポートセンター（協働推進課内）で取り扱っています。

※アップルビーツは、虎の門ライブハウスを中心に週2回のステージライブを行ってきた、実績あるビートルズトリビュートバンドです。

